費用の未払

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　費用の未払の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未払費用」勘定（負債）

当期の費用として発生していますが、支払が次期以降のためにお金を支払っておらず、当期に費用として処理されていない場合があります。この場合、当期の費用として計上する必要があります。これを**費用の未払**といい、費用の未払から生じる勘定を**未払費用**といいます。

未払費用はサービスは受けましたが、まだお金を支払っていないので、今後の支払義務として**負債**です。なお、未払費用は具体的な内容を示すために「未払家賃」勘定、「未払地代」勘定、「未払保険料」勘定、「未払利息」勘定、「未払法定福利費」勘定などを用います。

例題　2030年4月1日に銀行から借入期間２年で借り入れ、利息１年分1,200円を毎年3月31日に現金で後払いする。なお、決算日は12月31日である。

①　借入時（期中取引）

利息を後払いするので、借入時には利息に関する仕訳はありません。

②　決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

支　払　利　息	0	

③　決算整理（2030年12月31日）

2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の費用ですが、支払日が2031年3月31日であるため、決算整理前には費用に計上されていません。そこで、900円を当期の費用として計上し、未払分を「未払利息」勘定（負債）として計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支　払　利　息	**900**	**未　払　利　息**	**900**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

支　払　利　息	900	未　払　利　息	900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

期首に**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。ここで、支払利息という費用が貸方残高となりますが、2031年３月31日に１年分の利息を支払い、その処理を行えば、正しい金額となります。

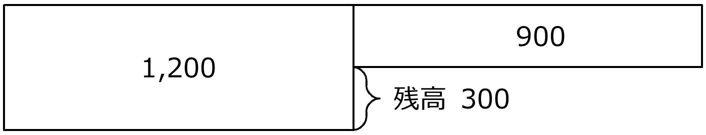
借方科目	金　額	貸方科目	金　額
未　払　利　息	**900**	**支　払　利　息**	**900**

⑥　利息支払時（2031年３月31日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
支　払　利　息	**1,200**	**現　　　金**	**1,200**

2031年３月31日に１年分の利息を支払い、「支払利息」勘定に1,200円を計上すると、そのうち前期分900円（2030年4月から12月の9ヶ月分）は期首の再振替仕訳で「支払利息」勘定のマイナスとして処理されているので、次期分の300円が正しく計上されます。

支払利息



収益の未収

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　収益の未収の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「未収収益」勘定（資産）

当期の収益として発生していますが、受取が次期以降のためにお金を受け取っておらず、当期に収益として処理されていない場合があります。この場合、当期の収益として計上する必要があります。これを**収益の未収**といい、収益の未収から生じる勘定を**未収収益**といいます。

未収収益はサービスは提供しましたが、まだお金を受け取っていないので、今後お金を受け取る権利として**資産**です。なお、未収収益は具体的な内容を示すために「未収家賃」勘定、「未収地代」勘定、「未収利息」勘定などを用います。

例題　2030年4月1日に貸付期間２年で貸付を行い、利息１年分1,200円を毎年3月31日に現金で後受けする。なお、決算日は12月31日である。

① 貸付時（期中取引）

利息を後受けするので、貸付時には利息に関する仕訳はありません。

② 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

	受取利息	0

③ 決算整理（2030年12月31日）

2030年4月から12月の9ヶ月分900円は当期の収益ですが、受取日が2031年3月31日であるため、決算整理前には収益に計上されていません。そこで、900円を当期の収益として計上し、未収分を「未収利息」勘定（資産）として計上します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収利息	**900**	**受取利息**	**900**

④　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

未　収　利　息	900	受　取　利　息	900

⑤　次期期首の処理（2031年１月１日）

期首に**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）を行います。ここで、受取利息という収益が借方残高となりますが、2031年３月31日に１年分の利息を受け取り、その処理を行えば、正しい金額となります。

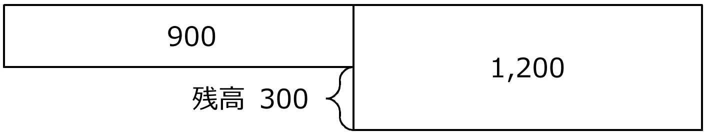
借方科目	金　額	貸方科目	金　額
受　取　利　息	**900**	**未　収　利　息**	**900**

⑥　利息受取時（2031年３月31日）

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
現　　　金	**1,200**	**受　取　利　息**	**1,200**

2031年３月31日に１年分の利息を受け取り、「受取利息」勘定に1,200円を計上すると、そのうち前期分900円（2030年4月から12月の9ヶ月分）は期首の再振替仕訳で「受取利息」勘定のマイナスとして処理されているので、次期分の300円が正しく計上されます。

受取利息



収益・費用の前受・前払と未収・未払　問題

問題1　以下の取引に関して、①から④について必要な決算整理仕訳を、⑤については期首における仕訳を行いなさい。なお、決算日は2030年12月31日である。

① 借入金500,000円は2030年10月1月に年利率2.4%、利息は後払い、期間8ヶ月の条件で借り入れたものである。
② 決算整理前の保険料勘定34,000円は建物に対する火災保険料で毎年、同額を6月1日に1年分を支払っている。
③ 受取家賃は毎年同額を7月1日に1年分を受け取っており、本年も同額受け取っている。なお、決算整理前の受取家賃勘定は81,000円であった。
④ 当社保有の土地を取引先に貸しているが、契約により毎月の地代は翌月初に受け取ることとなっている、なお、毎月の地代は300,000円である。
⑤ 前期に計上した未収利息11,000円を、当期首に再振替仕訳を行った。

収益・費用の前受・前払と未収・未払　答案用紙

問題1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				
③				
④				
⑤				

収益・費用の前受・前払と未収・未払　解答解説

問題1　**解答**

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	支払利息	3,000	未払利息	3,000
②	前払保険料	10,000	保険料	10,000
③	受取家賃	27,000	前受家賃	27,000
④	未収地代	300,000	受取地代	300,000
⑤	受取利息	11,000	未収利息	11,000

問題1　**解説**

①　費用の未払として、「未払利息」勘定（負債）で処理します。

500,000×2.4%÷12ヶ月×3ヶ月(2030年10月から12月)＝3,000

②　費用の前払として、「前払保険料」勘定（資産）で処理します。決算整理前の「保険料」勘定（費用）の金額は17ヶ月分（2030年1月から2031年5月、期首の再振替仕訳分5ヶ月分＋2030年6月1日支払の１年分）であり、繰り延べるのは5ヶ月分（2031年1月から5月）です。したがって、前払保険料の金額は以下となります。

34,000÷17ヶ月×5ヶ月＝10,000

③　収益の前受として、「前受家賃」勘定（負債）で処理します。決算整理前の「受取家賃」勘定（収益）の金額は18ヶ月分（2030年1月から2031年6月、期首の再振替仕訳分6ヶ月分＋2030年7月1日受取の１年分）です。繰り延べるのは6ヶ月分（2031年1月から6月）です。したがって、前受家賃の金額は以下となります。

81,000÷18ヶ月×6ヶ月＝27,000

④　収益の未収として、「未収地代」勘定（資産）で処理します。

⑤　前期の決算整理で以下の仕訳が行われているので、当期首で逆仕訳である再振替仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収利息	11,000	受取利息	11,000